



ことばは「花束」か、「鋭いナイフ」か

12月の**人権週間**を前に、全校集会にて「ことばは魔法？それとも武器？」をテーマに講話を进行了。子どもたちには、日ごろ使う「ことば」が持つ、**大きな力と重み**について深く考えてもらいました。

講話では、**ことばの二面性を「花束」と「鋭いナイフ」という象徴で伝えました。**



花束：相手を元気づけ、人間関係を豊かにする面。

鋭いナイフ：相手の心に目に見えない深い傷を残してしまう面。

私たちは、意見や考え方方が合わない時や、相手を見下した時に、無意識にナイフを振り回しやすいことを伝えました。そして、ナイフを使わすことばを「花束」にするために、次の大前提を呼びかけました。

「人はみんな違う（多様性）。違っていて当たり前。」

気が合わない人がいるのは普通のこととし、感情的にならず、自分の言動を振り返る重要性を強調しました。



また、特に現代のコミュニケーションでは、**オンラインの向こうに必ず「心」があること、文字やスタンプ一つでも相手を傷つける可能性がある**ことに注意を促しました。

人との相違を乗り越えるには、「対話」しかありません。自分の思いを、相手への尊敬を込めた「花束」のようなことばで伝え、相手の意見にも耳を傾ける姿勢の大切さを伝え、講話を締めくくりました。

保護者の皆様におかれましても、この機会に、ご家庭でお子様との**ことばの使い方**や**ネット上のコミュニケーション**について、ぜひ**対話**していただければ幸いです。子どもたちの感想と問い合わせを紹介します。

1年 心が傷つく言葉は使いません。

2年 画面の向こうに心があると思ってコメントしたい。

3年 鋭いナイフをなくすためにどうすればいいのか？

4年 私はSNSに悪口や人が嫌がることは書きません。

5年 言葉を言うときは、一度考えようと思いました。

6年 意見がちがう時には、対話しようと思いました。

1年生と園児との交流会「秋のおもちゃ祭り」を開催

12/2(火)、1年生が岩松保育園の園児たちを招き、異年齢交流会**「秋のおもちゃ祭り」**を開催しました。1年生は生活科で手作りした魚釣りや射的、迷路、コマなどの**創意工夫を凝らしたおもちゃ**を準備し、来校した園児たちは歓声を上げて大喜びでした。



交流では、1年生の**温かい思いやり**が見られました。魚釣りの場面では、なかなか釣れない園児にそっと手を差し伸べ、**釣らせてあげる優しい姿**が見られました。自分たちが主役であると同時に、相手を楽しませる**おもてなしの心が育っている**ことを感じました。

交流会の最後には、原稿に頼らず堂々と進行したり、大勢の前で自分の言葉で感想をはっきりと述べたりする姿は、まさに**頼もしい上級生**のようでした。

今回の「秋のおもちゃ祭り」を通じ、**異年齢交流**は、子どもたちの**主体性や社会性**を大きく引き出す、極めて有効な学習の場であると改めて認識しました。

この経験が、今後の学校生活における1年生の自信と成長に繋がることを期待しています。

ノリノリの全校集会での発表 by 図書委員長

12/1(月)の全校集会で、図書委員会委員長の原口陽向さんが、秋の読書週間「もみじまつり」の結果を発表しました。発表内容は、貸出冊数第1位の学年(4年生)と、ビブリオバトル決勝戦の優勝者(田中葵真さん)と「チャンプ本」の発表などでした。

単なる結果報告に留まらず、陽向さんは発表直前に**ポーズ**を取り、「なんと、なんと、なんと、なんと…！」と、まるでテレビの司会者のような**ノリノリの口調**で会場を盛り上げてくれました。**自分の役割を楽しみながら、責任を果たす**陽向さんの姿勢は、本当に素敵でした。**創意工夫を凝らして伝える**この**主体性**は、周りの人々に**元気や勇気**を与えてくれます。

今回の発表は、**子どもが主体的に学校生活を彩り、引っ張っていくことの素晴らしさ**を再認識させてくれる出来事となりました。

